毎日新聞
（第3種郵便物認可）
2000.1.24 毎日

障害児持つ親が連帯

子どもの自立実現へ ネットワーク結成

武生

障害児を持つ武生市内の親のネットワーク「武生に暮らす全ての子どもたちの社会的自立を実現する会」＝田中三紀子代表(39)＝が今月発足した。障害の性質や加盟団体の枠を乗り越え、広い視点で活動することで、子どもの幸せにつなげようとの趣旨。まず、保育・幼稚園や小中学校への介助員配置など4項目を市に陳情しようと、1万人を目標に署名集めを展開している。【梅山 崇】

署名簿をチェックする田中代表（右）と山田さん親子

就労場所拡大など陳情へ

「実現する会」の中核となるのは、市障害児通園事業保護者の会▽ダウン症候群児親の会▽自閉的傾向を持つ子の親の会▽言語治療教室せせらぎの会▽聴覚障害児者及び親の会▽市肢体不自由児協会――のメンバー。市エンゼルプラン改定委員を務める田中代表がさまざまな立場の障害児の親から意見を聞く機会を設けたのがきっかけ。ネット化で発言力を高め、組織未加盟者も気軽に参加でき、情報交換も図れるようにと、恒常的な組織にした。

介助員配置以外の陳情項目は、市福祉健康センター開設（今年4月）に伴い処遇が宙に浮いている国高診療所の「小児療育センター」化▽建設計画中の「南越地区養護学校」のソフト面への参画▽授産施設など就労場所の拡大。来月中旬に署名簿を添えて、三木勅男市長らに陳情する。

重度身体障害の長女琴弓さん(15)が家族にいる田中代表は「小児療育センター一つみても、現在の国高診療所では月1回の療育相談がある程度。常駐の専門医がいれば安心して暮らせる。そういった声を集約して伝えないと。年数回の会報発行や野外イベントなど、ニーズに応じた活動も幅広く展開したい」と意欲十分。

メンバーの一人で、ダウン症の二男敬太ちゃん(5)を育てる山田真里子さん(36)は「ダウン症児の親だけでは母体が小さく、要望もいつも尻すぼみ。さまざまな障害を持つ子の親と連帯することで、実効性あるものに」と期待している。

署名集めには市職員組合が全面協力。市役所内にある組合事務所で受け付けている。

小児療育センター（類似施設含む）は県内では福井市にしかなく、武生市からは47人が通所。常駐医はいないものの言語療法や理学療法を実施する国高診療所には、同市内から57人が通っている。同市内の職環境をみると、身体障害者用では「たけふ福祉工場」、知的障害者用では授産施設「ひまわり作業所」だけ。福祉工場は定員40人に対し26人が在籍。作業所は30人の定員いっぱいという。